

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2278200106		
法人名	社会福祉法人 三幸会		
事業所名	グループホームやまざき		
所在地	静岡県浜松市西区雄踏町山崎2829番地		
自己評価作成日	平成24年3月13日	評価結果市町村受理日	平成24年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成24年3月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念に基づきゆったりと楽しく自由でありのままに生活していただける様、日々つとめています。利用者の希望を取り入れての定期的なお楽しみ会では、食事作りや外食、季節を感じていただけるようにその時々に出外を計画しています。畑作りも行い旬の野菜を収穫して楽しみ、花畑で咲いた花を食堂に飾り日々の暮らしを楽しんでいます。デイサービスの利用者トランプやゲームをして互いに交流をして良い環境下で生活しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな自然に囲まれていて特別養護老人ホームやデイサービスと併設しているのが特徴のひとつである。家庭的な雰囲気を大切にしている、庭に咲いた花々を飾ったり、毎月1回外出や行事の時間を作って自然と触れあったりイベントを通して季節を感じてもらえるよう支援している。「お楽しみ会」と称した行事は利用者の楽しみとなっていて、企画を担当する職員も熱が入るといふ。また法人で身体拘束、感染、事故、褥瘡対策の4つの委員会が発足して、職員は各委員会に属して環境整備に取り組み、利用者に安心して過ごせる場を提供している。地域から自主的なボランティア(演奏や畑の手入れ)の申し出もあり、今後もさらに地域との関係が深まっていくことが期待できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	前年度の目標達成計画に基づいて解りやすく改めた理念を、事務所に掲示しつつでも読めるようにしている	わかりやすい言葉で構成されていて、大きく表示して見やすいという工夫がある。毎朝出勤時に連絡ノートに目を通すとともに理念を一読している。以前には業務に追われることもあったが、今では利用者に寄り添い、話を聴く職員の姿が増え、管理者は理念の浸透を実感している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加している、買い物外食等地元のお店を利用している	事業所行事に地域の皆さんに来てもらうのは大変という考えから、事業所が積極的に地域へ出かけている。老人クラブ、子ども会、青年団等が主催するふれあい広場に年2回出店するのが毎年の恒例行事となっている。祭りでは見物する場所を地域が提供してくれ、綿菓子やポップコーンを振る舞ってくれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2か月に1度開催し地域の方との意見交換の場としている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行事計画、近況報告を行っている、会議の内容は職員につたえている(会議録)	2ヶ月に1回開催している。地域の住民も数名参加してくれ、運営推進会議の参加をきっかけに慰問や畑の手入れの申し出があり交流へと発展している。また、言葉遣いについて事例を挙げて包括から話をしてもらい、職員へ伝達、取り組みへとつなげている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村担当者に参加してもらっている	介護相談員が月に2回来てくれる。第三者の目として事業所の様子について実直な意見を伝えてくれるので参考になり役立っている。運営推進会議を欠席した時は市や包括へ議事録を届け、「FAXでいいよ」と言ってもらえることも出向いて渡すようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月会議を開き担当の職員が参加し他の職員に伝えている、全職員意識を持ってケアしている	毎月身体拘束排除の委員会会議がある。事業所では職員同士が協力してできるだけ施錠しない環境を作っている。事業所内にこもりきりにならないよう、「一緒に行きますか」と誘って併設のデイサービスに行き気分転換を図ったり、見守りを工夫して拘束をしないケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に行う会議にて話し合いをしている、研修にも参加している		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在3名の方が利用している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分説明している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し意見、要望等伺う機会を設けている、面会時には職員一人一人が交流を図りその都度意見を伺っている	年1回家族会を開催している。納涼祭に招待して利用者と楽しいひとときを過ごしてもらったり、バザーに協力を呼びかけてたくさんの寄付をもらっている。面会時に必ず意見を聴くようにして、家族からは利用者に関する要望が多く出ている。面会が遠のいている家族には時折電話を入れている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議で話し合いをしている	管理者は職員が意見を言いやすいような環境作りに配慮していて、実際改善につながった事例も多い。例えば、以前は階段を数段降りて入る大浴場だったが職員の意見によって個室を設置するよう改装している。課題があれば職員で話し合い、検討を重ねることを常としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境や条件をたえず見直し労働条件の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会、外部研修等でスキルアップを図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修時交流の機会をつくりサービスの質の向上に努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時話し合いの機会を設け要望に基づいたサービスに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接、入居時に詳しく聞き要望にそえる様努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に本人及び家族の意向を十分把握して支援できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の日々の生活で共に家事を行いお互いに支えあい、楽しく暮らせるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りにて様子を報告、受診時には家族にお願いしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の情報を集め本人の生活史の把握に努め支援している	グループホーム便りを毎月発行して行事や日々の様子を伝えたり、利用者の担当職員の手紙を添えている。また面会時に写真を見てもらい、具体的な様子も伝えている。併設のデイサービスから移った利用者が多く、馴染みの関係がそのまま継続されている。また、隣りに住んでいた友人が訪ねてくれることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等で交流を図り共に生活していく仲間として仲良く暮らしていけるよう努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特養に入居した方のところに利用者と共に会いにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	機会ある度に思いを聞いている、日々の状態を観察し本人にとって最良のケアになるように努めている	今年度は家族会を活用して家族から利用者の生活史などについて新たに情報を収集した。また普段から食器洗い、拭き、片付けなど利用者が役割を持って取り組むことを支援している。やりたいという利用者が多く、均等にやってもらえるよう工夫している。職員との会話から家族も知らなかったことがわかる時もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を重視し支援している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌に記録し連絡ノートで全職員が共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議にて話し合い必要時には家族、本人を交えて話し合い個別の支援に努めている	モニタリングはアセスメントの見直しも兼ねて3ヶ月に1回行っている。担当職員から聞き取りをしたり、毎月の会議の中で職員の意見を集約してケアマネージャーがプランを作成している。家族には受診や面会の時間を活用して話し合いの場を作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌に記録し共有している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設している特養に協力を求めている(緊急時看護師等)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今後の課題である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を取り入れている(受診時には家族が付き添ってくれる)	協力医は2週間に1回の往診があり、24時間対応してくれる。協力医以外の受診については家族にお願いしているが、難しい場合は職員が受診支援している。結果は利用者毎に最新の薬情を連絡ノートに記載し、「薬の早見表」により変更や連絡事項を速やかに周知している。	利用者の体調の変化が時間経過でつかめるように医療情報をまとめたファイルを作成することを期待したい。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当の医師にその都度連絡し指示をもらっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	面会に行き情報を交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	担当の医師と家族で決めている	契約時に事業所でできること、できないことを家族に説明して理解してもらっている。法人で開催する緊急時の対応についての勉強会に参加している。重度化した際は個々のケースに合わせた対応方法を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行いすべての職員が適切に対応できるようにしている マニュアルも作成している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている	大震災を受けて津波想定にも取り組んでいる。夜間想定に代わり、ベッドのまま外へ連れ出すことを試みた結果、壁側のストッパーを外すことに時間がかかることがわかり、改善につなげている。今後は地域との協力体制の構築を課題としている。	地域の防災訓練に職員が参加し、協力依頼ができるような関係をつくっていくことを期待したい。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳を大切に日々のに努めている	会議録では利用者をイニシャルで示して、特定されないよう配慮している。親しみを込めた呼び方について賛否両論があり、「さん付け」と統一することに決めた。また言葉遣いについても馴れ合いにならないよう意識を持って取り組んでいる。管理者は利用者が「人生の先輩である」ことを常に職員に伝えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを大切に自己決定できるよう支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに応じた支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問してくれる理髪を利用している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の食事作りに役割を持って行っている、希望を取り入れたお楽しみ会を計画し外食等で楽しんでいる	1週間分の献立を掲示して毎日の食事が楽しみになるように工夫したり、小鉢を使用して見た目にもおいしいような盛り付けを心がけている。お楽しみ会でおやつ作りをする機会が増え、利用者の喜ぶ姿も増えているという。併設の特別養護老人ホームの「喫茶の会」に参加してケーキとお茶を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表にて把握している、献立は特養の栄養士が作成している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを行っている(毎食後)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記録、排泄のパターンを把握、トイレ誘導を行っている	あからさまな声かけはせずさりげなく「一緒に来てもらえますか」と誘導している。現在排泄表で管理している利用者はごくわずかでほとんどが自立していて布パンツで過ごしている。排泄のリズムが整うことで体調が安定し、眠剤も不要になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	それぞれ必要に応じて水分補給を行い運動にも心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在午後の時間帯に入浴してもらっている、一人一人のんびり入浴できるように配慮している	毎日湯を張って、入浴は1日おきに実施している。日曜日は休みとしているが毎日入りたい利用者への対応は可能である。シャンプーやボディソープは個々に好みのもを使用している。湯上りのさっぱりとした様子で職員とソファに腰かける姿からも気持ちよく入浴していることが覗えた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間眠れない時には共にすごし話をして落ち着いて入眠できるように配慮している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時の薬の説明書により把握、常に状態を観察して変化があれば主治医に連絡する		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中での役割分担をきめて出来ることの支援と共に役立っているという思いも大切にしている 希望による外出、外食を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望により嗜好品等の買い物に出かけている、気候の良い日にはホーム外の散歩を日課としている	利用者が欲しいものを職員と一緒に買い物に行き、支払いを利用者が行うことで「主体が利用者」となるよう支援している。薬局や商業施設に行ったり、佐鳴湖公園、ガーデンパーク、工場見学に出かけている。また外食に行くこともあり、この春も花見を兼ねた外出を計画中である。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の状態に応じ買い物時に自分の財布からお金の支払いをしてもらっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	何時でもできるように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、フロアー、食堂に季節の花を飾っている	共用空間は木をふんだんに使用していて、ぬくもりが伝わってくる。また福祉体験に訪れた中学生のお礼状も温かい交流の様子が覗える。オープンキッチンのカウンターは低めに設置されていて、利用者の動きがスムーズになるよう配慮が感じられる。廊下が広いので歩行訓練をしたりボーリングを楽しむこともある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファがありのんびりくつろげるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の好みのも、使用していた物を持ち込みできるようにしている	クローゼットやベッドのほか、トイレやテーブルと椅子も備えつけられ、プライベートな空間であることが考慮されている。家族の写真、ラジカセ、衣装ケースなどを持ちこんだり庭で摘んだ花を遺影に供える利用者もいて、その人らしさの表れた暮らしが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室にトイレ、洗面台があり一人一人自立した生活が保たれる		